



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	撫子会保存資料 解題(fulltext)
Author(s)	小正,展也
Citation	東京学芸大学大学史資料室報, 6: 9-14
Issue Date	2019-03-31
URL	http://hdl.handle.net/2309/159355
Publisher	東京学芸大学大学史資料室
Rights	

はじめに

2019年2月22日、東京学芸大学大学史資料室（以下、大学史資料室と略記）は撫子会（なでしこかい）保存資料の公開を開始した。この度の撫子会保存資料の公開は2012年4月1日に大学史資料室が開室してから最初の資料公開となる記念すべきものである。

撫子会保存資料は東京府豊島師範学校（以下、豊島師範と略記）・官立東京第二師範学校（以下、東京第二師範と略記）の同窓会組織である撫子会が収集した資料群である。撫子会が会員の高齢化により同窓会活動を終了するのに伴い、当資料群は2006年9月に東京学芸大学附属図書館へ寄贈された。現在は大学史資料室が当資料群を管理している。

撫子会保存資料が本学附属図書館へ寄贈されることとなった経緯については現在のところ不明な点が多い。当資料群が本学へ寄贈された理由もあまり明確ではないが、資料管理上の問題が関係しているようである。

撫子会保存資料が寄贈された頃に『豊島師範・東京第二師範同窓会撫子会保存資料目録』（撫子会有終記念資料整備委員会、2006年9月、以下『撫子会保存資料目録』と略記）という目録が作成されている。大学史資料室では撫子会保存資料の燻蒸を行った後、『撫子会保存資料目録』を参照しながら新たな公開用目録の作成作業を進めてきた。このような作業を経て完成したのが今回、大学史資料室サイト上に公開された「豊島師範・東京第二師範同窓会 撫子会保存資料目録」（以下、「撫子会保存資料目録」と略記）である。今後、撫子会保存資料の利用が進むと思われるので当資料群の理解のために必要な事項について簡単に述べていきたいと思う。

1. 豊島師範・東京第二師範について

最初に撫子会員の母校である豊島師範・東京第二師範の沿革について簡単に説明しておきたい。東京学芸大学は1949年5月31日に新制大学として開学したが、その時に設立母体の一つとなったのが東京第二師範であった。また東京第二師範の前身校は1908年11月14日に池袋の地に設置することが東京府によって告示され、1909年4月17日から授業を開始した豊島師範である。

豊島師範は東京府立では第三番目の師範学校となる。当時、豊島師範のような道府県立の師範学校は主に小学校本科正教員を養成するための中等教育機関だった。日露戦後の東京府は都市部への人口集中と義務教育年限延長による就学児童急増問題に対処するために豊島師範を設立したのであった。

その後、道府県立の師範学校は1943年3月8日公布の改正師範教育令によって官立（国立）の専門学校程度の教育機関に昇格する。豊島師範も1943年4月1日から官立の東京第二師範となった。豊島師範・東京第二師範は1944年4月1日に東京都本郷区東片町（当時）に東京第二師範学校女子部が設置されるまでは男子校であった。東京第二師範学校女子部が設置されたことによって、もともとあった池袋校舎の方は東京第二師範学校男子部となる。そして第二次世界大戦後の日本の学制改革によって師範学校制度が廃止されたことに伴い、1951年3月31日に東京第二師範学校（男子部・女子部）は廃校となった。

2. 撫子会と撫子会保存資料の来歴について

1909年4月に開校した豊島師範では1918年10月17日に最初の同窓会が開催された。その後、1922年10月17日に豊島師範の同窓会組織として撫子会が設立される。戦前の撫子会の活動についてはほとんど分かっていないが『東京学芸大学二十年史 一創基九十六年史一』（東京学芸大学創立二十周年記念会、1970年）によると「毎年総会を開き、会員の親睦と結束を図」っていたようである（同923頁）。撫子会員は豊島師範が男子校であったため圧倒的に男性が多いが、東京第二師範学校女子部の学生も1946年3月23日に第1回の卒業生が出てから撫子会員となっている。

東京第二師範の廃校後、撫子会の活動は一層活発になったようである。東京第二師範廃校後の撫子会の活動全般については記念誌である『撫子八十年』（撫子会、1988年）・『師範教育を想う』（撫子会、1997年）を参照していただきたいが、本稿で当資料群の形成との関係から注目するのは撫子会が1975年ごろから開始した資料収集活動である。1975年頃から撫子会は資料整備特別委員会（資料収集特別委員会と記載されている資料もある）を設置し母校である豊島師範・東京第二師範に関する諸資料の収集を開始した。撫子会の会報である『撫子だより』に掲載された記事の中に当時の撫子会の資料収集に関する問題意識などが窺えるものがあるので長文であるが引用してみる。

二つの提言

なでしこの資料

なでしこゆかりの物品を一ヶ所に集めて保存したらどうか。ひとりひとりが、それぞれ個人が貴重ななでしこの資料を持ったまま、散逸してしまうのはあまりにも惜しい。

いろいろの種類のもを集めて分類すれば、活きた、なでしこの歴史となり、また東京都の教育の歴史を語る重要な資料ともなる。

さいわい成美会館があるから、とりあえず一室を資料室として借りて、そこに集めたらどうだろう。（後略）（「〔巻頭言〕二つの提言」『撫子だより』57号、1974年12月25日。本稿における『撫子だより』からの引用は『復刻 撫子（自第五一号 至第一〇七号）』〔整理番号「JP-TKYGA-1-TOS-10-136」〕より行った。以下同様。）

（前略）わが撫子会本部と支部、現職と先輩等の間から、「母校豊島師範学校・同附属小学校の教育は、歴史的にみても立派な使命を果してきた。また、激動変転する今日及び将来の、教育改革の大きな光ともなるであろう。池袋の駅頭には、あのなつかしい思い出の校舎・校庭・農場・運動場の影はないが、せめて当時の教育をしのび、語りあえる資料を集めたいものである」という意見がもり上がり、高橋幹事長の音頭で、資料収集特別委員会が発足することになった。（後略）

（「〔巻頭言〕撫子資料室の創設 副幹事長小山昌一」『撫子だより』60号、1975年12月20日）

東京第二師範学校男子部は1945年4月13日の空襲によって附属校舎以外の建物（師範学校の校舎や寄宿舎など）が悉く焼失した。東京第二師範学校女子部でも同日の空襲によって女子部第二寮舎が焼失している。その後、東京第二師範学校男子部は1946年5月7日に東京都小金井町（当時）の旧陸軍第三技術研究所跡地（現在の本学小金井キャンパス敷地の一部）に移転した。東京第二師範学校男子部の小金井移転後も唯一、池袋の地に

残っていた東京第二師範学校男子部附属国民学校は1949年の本学設立後に東京学芸大学附属豊島小学校となるが、1964年3月31日に閉校となっている。東京第二師範学校女子部も本学設立後、本学の追分分校となっていたが、本学キャンパスの統合計画により1953年3月31日に廃止された。豊島師範・東京第二師範学校（男子部・女子部）の卒業生にとっては自分たちが曾て通った池袋・追分の校舎などが消えてしまったこともあって記念事業の一つとして資料収集活動を開始したようである。

資料整備特別委員会では資料の収集・整理・展示を1975年度からの三ヶ年計画で考えていた。『撫子だより』によると資料整備特別委員会が考えていた収集すべき資料は次のようなものであった（「座談会 豊師の内実を後世に！！ ―資料整備特別委員会の抱負と施策―」『撫子だより』第60号、1975年12月20日）。

- (1) 写真類
- (2) 制服制帽
- (3) 運動部ユニホーム
- (4) 校友会誌・校友名簿
- (5) 同期会発行会誌
- (6) 運動部・文化活動各部の記録
- (7) 教科書類
- (8) 各期の卒業アルバム、修学旅行等アルバム
- (9) 賞状・辞令類
- (10) 校舎設計図・平面図類
- (11) 学校周辺の変遷を語る資料
- (12) 豊師・第二師範にかかわる新聞・雑誌等の記事類
- (13) 在校時の作品・成績物等
- (14) 女子部関係の記録・いっさいの資料
- (15) 附小関係の記録・児童の作品類
- (16) 豊島修練会関係の資料
- (17) 撫子会関係の資料
- (18) 個人の日記・教生実習記録類
- (19) 旧師の書簡等旧師に関する資料

撫子会員などに向けて資料提供の呼びかけがなされ、「恩師、会員、約五十名の方々から寄せられた資料約千点を、受入れ、分類し、展示する作業」（「なでしこ資料室の片隅から」『撫子だより』第66号、1977年12月20日）が1976年の暮から1977年4月にかけて行われた。1977年4月23日には成美会館〔1967年6月10日に東京都東久留米の地に竣工。撫子会と偲豊会（附属父兄の団体）の双方から役員を送って組織した豊島修練会が運営した。〕内に撫子資料室が開室する。『撫子だより』によると撫子資料室では収集・整理された諸資料が展示されていたようである（「資料室コーナー」『撫子だより』第80号、1982年7月31日、など）。

資料整備特別委員会が作成した収集資料リストなどは現在の撫子会保存資料中には存在しないが、先述のようにして収集・整理された資料によって撫子会保存資料の原型が形成されたと推測される。そして撫子会保存資料の中には1977年以降の資料も多数存在するので、資料整備特別委員会による資料収集活動終了後も撫子会は会員による資料の寄贈を引き続き受けていたと考えられる（寄贈なので自然に資料が集まってきたと言うべきかもしれない）。このようにして形成されたと推測される撫子会保存資料が本学に寄贈された頃の資料群の状況を記述したのが『撫子会保存資料目録』である。『撫子会保存資料目録』の作成の経緯についてもほとんど情報が無いが、撫子会保存資料が本学に寄贈されるまでの来歴については現在のところ以上のように考えている。

3. 撫子会保存資料の概要

最後に「撫子会保存資料目録」に依りながら撫子会保存資料の概要について簡単な紹介を試みたい。

今回、大学史資料室が公開した「撫子会保存資料目録」では『撫子会保存資料目録』における分類項目をそのまま採用している。それは『撫子会保存資料目録』における元々の分類を尊重すべきだと考えたからである。

『撫子会保存資料目録』では「1-1 学校誌（校友会誌）」から「7 同窓著作図書」までの13通りに分類されていた。「撫子会保存資料目録」には『撫子会保存資料目録』の分類項目を掲載していないが、「撫子会保存資

料目録」中の整理番号を見れば分かるようになってきている。「撫子会保存資料目録」中の整理番号は大学史資料室が開発した師範学校アーカイブズの方式に倣って附されている。例えば「JP-TKYGA-1-TOS-01-001」は「日本 - 東京学芸大学大学史資料室 - 資料群の番号（撫子会保存資料は1） - 豊島師範 - 分類項目番号（撫子会保存資料では01～12。01は「学校誌（校友会誌）」 - 分類内での資料番号」を意味している。『撫子会保存資料目録』の分類項目と整理番号中の分類項目番号の対照については【表】を参照していただきたい。

【表】「撫子会保存資料目録」の整理番号中の分類項目番号と『撫子会保存資料目録』に於ける分類項目の対照

整理番号中の 分類項目番号	『撫子会保存資料目録』に於ける分類項目
01	1 - 1 学校誌（校友会誌）
02	1 - 2 校友会名簿
	2 教科書
03	3 - 1 生活用具
04	3 - 2 徽章・記念品
05	3 - 3 学校教務・学校生活
06	4 - 1 教授案
07	4 - 2 作品
08	4 - 3 写真・アルバム
09	5 研究資料
10	6 - 1 同窓会誌・会報・記念誌
11	6 - 2 同窓会名簿
12	7 同窓著作図書

『撫子会保存資料目録』の「2 教科書」の項目に記載されている資料（教科書）は2014年2・3月頃の段階で撫子会保存資料中に1点も存在しない状態であった。そのようになった経緯は分からないが『撫子会保存資料目録』の「2 教科書」の項目に記載されている資料（教科書）のほとんどは現在、本学附属図書館の教科書のコレクションに組み込まれているようである。そのため「2 教科書」の項目には「撫子会保存資料目録」の整理番号中の分類項目番号を附していない。また2014年2・3月の段階で『撫子会保存資料目録』に記載されている資料で所在不明になっているものも多数あった。こちらも経緯は不明であるが何らかの理由で返却されたりしてそのようになったと推測される。

以下、『撫子会保存資料目録』における分類項目ごとに概要を記す。

①「1 - 1 学校誌（校友会誌）」

ここには豊島師範の校友会誌・学年会報・サークル誌、豊島師範附属小学校の学報、撫子会が戦後に刊行した記念誌などが収められている。ここで注目したい資料は豊島師範の校友会誌である。東京第二師範学校男子部のほとんどの建物が1945年4月13日の空襲によって焼失したため豊島師範内部の資料がほとんどないとされている状況下において豊島師範研究の基礎資料の一つとなるべき重要なものである（ただし残念ながら全号揃ってはいない）。

②「1 - 2 校友会名簿」

ここには豊島師範校友会・報国団の名簿が収められている。これも先述の校友会誌と共に豊島師範研究の基礎となるべき重要な資料である。

③「3 - 1 生活用具」

ここには豊島師範の学生が実際に使用した脚絆やユニホーム・腕章などが収められている。脚絆は学校教練の際に使用されたものであると推測される。

④「3-2 徽章・記念品」

ここには豊島師範の校友会活動や寄宿舎での自治活動の際に使用された徽章や記念品が収められている。徽章や記念品が実際にどのようなものであったかを実物で確認することが出来る。校友会活動や寄宿舎での自治活動についての今後の研究に必要な資料であると考えられる。

⑤「3-3 学校教務・学校生活」

ここには撫子会員の手元に残されていた主に豊島師範・東京第二師範（男子部）の教務や学校生活に関する資料が収められている。入学関係書類や通知簿・卒業証書などの実物を見ることが出来る。

⑥「4-1 教授案」

ここには撫子会員が師範学校の学生時代に記した教授案（指導案）や教育実習記録が収められている。

⑦「4-2 作品」

ここには撫子会員が豊島師範在籍時に受講した講義の内容を記したノートなどが収められている。受講ノートのほとんどは小竹正一氏のものである。現在は本学附属図書館が管理している撫子会保存資料中の教科書と共に豊島師範での教育内容の一端を明らかにすることが出来る可能性のある資料だと考えられる。

⑧「4-3 写真・アルバム」

ここには卒業記念写真帖など豊島師範での学校生活の様子を窺うことが出来る写真資料が収められている。文献だけでは分からない学校生活の実際の様子を写真で確認することが出来る。

⑨「5 研究資料」

ここには主に東京第二師範学校男子部附属小学校・東京第二師範学校女子部附属小学校・本学附属豊島小学校・本学附属追分小学校・本学附属小金井小学校が編集・刊行した研究図書・研究紀要や撫子会員の個人研究の成果を纏めた研究図書などが収められている。撫子会と関係の深い附属小学校の研究活動について知ろうとする場合に便利である。

⑩「6-1 同窓会誌・会報・記念誌」

ここには主に豊島師範・東京第二師範の同窓会誌・同期会誌が収められている。ここで注目したい資料は同期会誌である。豊島師範・東京第二師範では卒業年度ごとの同期会がそれぞれ記念誌を自主的に発行していたようである。そのような同期会誌が大量に纏まって収集されていることは当資料群の大きな特色の一つであると言える。

⑪「6-2 同窓会名簿」

ここには撫子会員名簿が収められている。先述の校友会名簿と共に重要な基本資料である。

⑫「7 同窓著作図書」

ここには撫子会員が教員などを定年退職した後に著した回顧録、句集・歌集、画集などが収められている。先述の同期会誌と同様に撫子会員の著作が大量に纏まって収集されているのは当資料群の特色の一つであると言える。

おわりに

同窓会誌、校友会誌、撫子会会員の師範学校在籍時の受講ノート、記念品、撫子会会員の著作物などの多種多様な資料で構成されている撫子会保存資料の閲覧方法については大学史資料室サイト上にアップされている「東

京学芸大学大学史資料室閲覧利用案内」を見ていただければと思う。撫子会保存資料が多くの方に活用されることを願っている。